

(仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画
素案

2025 年 ● 月

町田市

— はじめに —

文化芸術は、人の営みの軌跡であり、

ありのままの自分を表現するための術でもあります。

わたしたちの暮らしに潤いや彩りを添え、

あるいは、心を豊かにし、喜びや幸せを感じるだけでなく、

人と人とがつながることや、多様性を認め合うことに加えて、

支え合いの土壌を育むといった、様々な役割を果たしています。

また、無限に広がるイマジネーションを喚起する創造の糧ともなり、

生きる力や未来への希望を生む、人間活動そのものともいえます。

* * * * *

このまちでなら

住む人も訪れる人も、文化芸術を自然と感じ、触れられる、

文化芸術から生まれたつながりの温もりや賑わいを体感できる。

ある人は、これまで抱き続けていた“やってみたい”を叶え、成長していける、

また、ある人は、ちょっといい街、ちょっといい暮らしを実感し、

まちへの愛着を抱いて、住み続けたい、あるいは、何度でも訪れたいと思える。

町田市は、多様な主体とともに文化芸術の薫るまちづくりを進め、

市内各地で色彩豊かな“笑顔”が咲き、賑わい続けるまちを目指します。

目次

1 計画策定の背景と目的	6
(1) 策定の背景（社会状況の変化）	6
(2) 策定の目的	7
(3) 計画の策定にあたって	7
2 計画の基本的な考え方	8
(1) 計画の位置づけ	8
(2) 構成と計画期間	8
(3) 文化芸術の範囲	9
(4) 対象	9
(5) 市の役割	10
(6) 文化芸術に関わる各関係主体と期待すること	10
3 目指す姿	11
4 町田市の特色と取組	14
(1) 町田市の特色	14
(2) 近年の文化芸術の取り組み	16
5 文化芸術のまちづくりに向けたポイント	17
6 方針と施策	23
7 計画体系	24
8 文化芸術プロジェクト	25
～まちだ Smile-link project（スマイルリンクプロジェクト）～	25
Project A 文化芸術で“みんなの夢”を叶える	26
Project B 文化芸術大型イベントの実現	26
Project C 「文化芸術にぎわい創出エリア」の活性化	27
9 施策と取組	27
(1) 方針に基づく取組	29
(2) 施策・取組一覧	30
方針1 きっかけをつくる	31
施策1 誰もが気軽に鑑賞・体験できる機会の確保	32
施策2 情報環境の拡充	33
方針2 場をつくる	35
施策1 施設の整備・活用	36
施策2 活動の場の充実	37
方針3 未来につなぐ	39
施策1 美術品や文化財の保存・活用	40
施策2 次世代への継承	41
方針4 共に創る	43
施策1 市民や団体等のチャレンジの創出	43
施策2 企業等との共創による推進	43
10 計画の推進にあたって	45
(1) 庁内関係部署との連携・推進	45
(2) 「町田市文化芸術のまちづくり推進委員会」と施策・取組の評価	45

1 計画策定の背景と目的

(1) 策定の背景（社会状況の変化）

■文化芸術と様々な分野との連携が求められています

国は、2017年に文化芸術基本振興法を改正し、「文化芸術基本法」を施行しました。同法においては、文化芸術によって生み出される様々な価値を文化芸術の継承や発展、創造に活かせるよう、観光や福祉、教育その他の各関連分野との連携を配慮することを求めています。また、こうした動きに伴って、文化芸術と他の関連分野との連携を進める法整備^{※1}も進んでいます。

- ※1
- 2018年：「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」施行・・・障害者の文化芸術活動を幅広く促進するための法律「文化財保護法」改正・・・地方自治体が主体的に文化財を保護し、観光に活用できるよう改正
 - 2020年：「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」施行
・・・文化資源の理解を深める機会を増やし、国内外からの観光客を誘致することで、文化振興、観光振興、地域の活性化という好循環を創出するための法律
 - 2022年：「博物館法」改正・・・博物館が地域の観光拠点となることを努力義務化。新たな業務としてデジタルアーカイブの構築を加える改正

■デジタル技術が浸透し、文化芸術がより身近になっています

デジタル技術の進展によって、美術館・博物館のバーチャルツアーやデジタル展示、オンラインコンサートや演劇など、オンライン鑑賞が普及し、地域や時間に制約なく誰もが手軽に楽しむことができるようになり、文化芸術に触れられる機会がより一層身近になっています。

一方、アーティストや文化芸術団体等がSNSで作品を広く発信し、ファンやコミュニティを形成することや、文化遺産や歴史的資料、芸術作品をデジタルアーカイブ化して、オンラインでのアクセスを可能にするなど、活動や創作物等をより広く発信できるようになっています。また、インバウンドが年々増加しており、日本の文化芸術を世界に発信するチャンスも訪れています。

■体験や特定の時間を重視するような社会に移り変わっています

個人の価値観やライフスタイルの変化によって、従来の物を所有する「モノ消費」から、体験やサービスを通じて得られる満足感や感動を求める「コト消費」へとシフトするとともに、旅行やイベントなど、特定の瞬間や限られた時間を特別なものにするような「トキ消費」も重視する社会に移り変わっています。

■新たな社会的つながりが生まれています

デジタル社会の進展によって、地域や地理的なつながりを基盤にしてきた、従来の地縁型コミュニティに加えて、共通の興味や趣味、価値観を共有する人々がオンラインやオフラインで集まり、多様な関心に基づいて交流する「テーマ型コミュニティ」といった新しい社会的なつながりが生まれています。

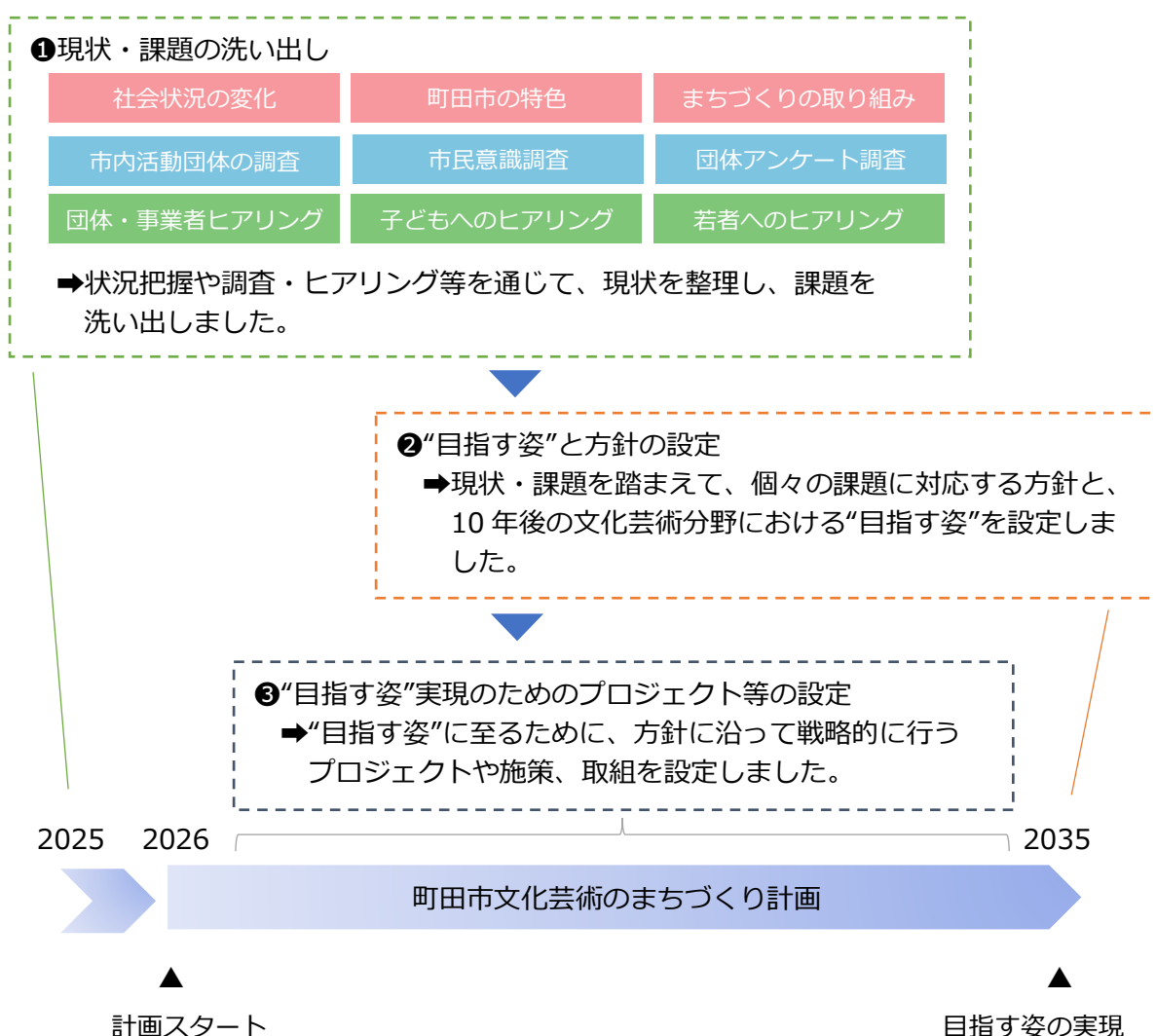
■企業の社会貢献活動が活発化しています

SDGs（持続可能な開発目標）やCSR（企業の社会的責任）の意識が高まる中、企業が文化や芸術を支援することで社会貢献を果たす「メセナ活動」が更なる広がりを見せています。こうした活動は、継続的に文化芸術活動を支援することに加え、企業と地域コミュニティとの連携・協力を通じて、持続可能な社会の実現に寄与し、社会と企業の双方にとって有益なものになっています。

(2) 策定の目的

町田市基本構想・基本計画「まちだ未来づくりビジョン2040」に掲げる“なりたいまちの姿”に至るための政策（政策7 ありのまま自分を表現できるまちになる）の実現に向けて、施策（施策7-2 文化芸術に親しめる環境・機会を充実させる）を推進するため、観光や福祉、教育その他の各関連分野や、多様な主体との連携を強化し、計画的にまちづくりを進めることをもって、市民やまちづくりに関わる方々が文化芸術を楽しみ、町田市への愛着やまちのにぎわいにつなげていくことを目的として策定します。

(3) 計画の策定にあたって

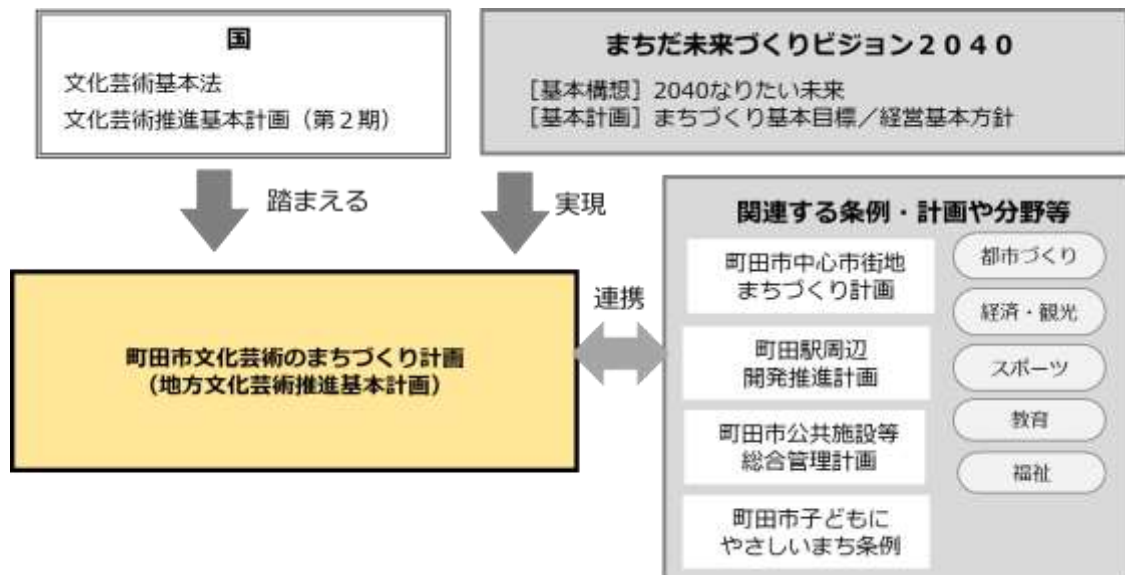


2 計画の基本的な考え方

(1) 計画の位置づけ

文化芸術基本法を踏まえるとともに、まちだ未来づくりビジョン2040を実現するため、関連する条例や個別の計画等との連携を図りながら事業を推進します。

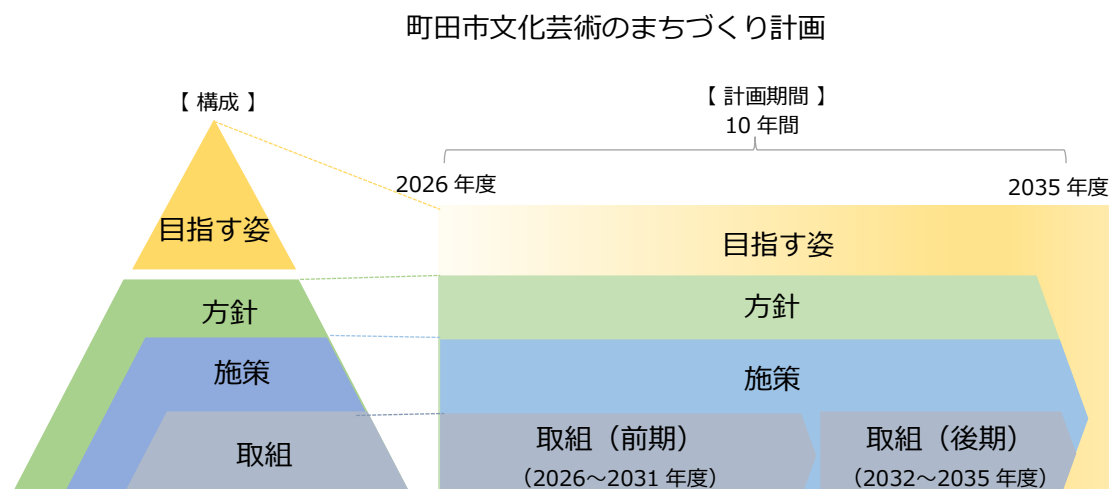
なお、本計画は、文化芸術基本法第7条の2に基づく地方文化芸術推進基本計画として策定します。



(2) 構成と計画期間

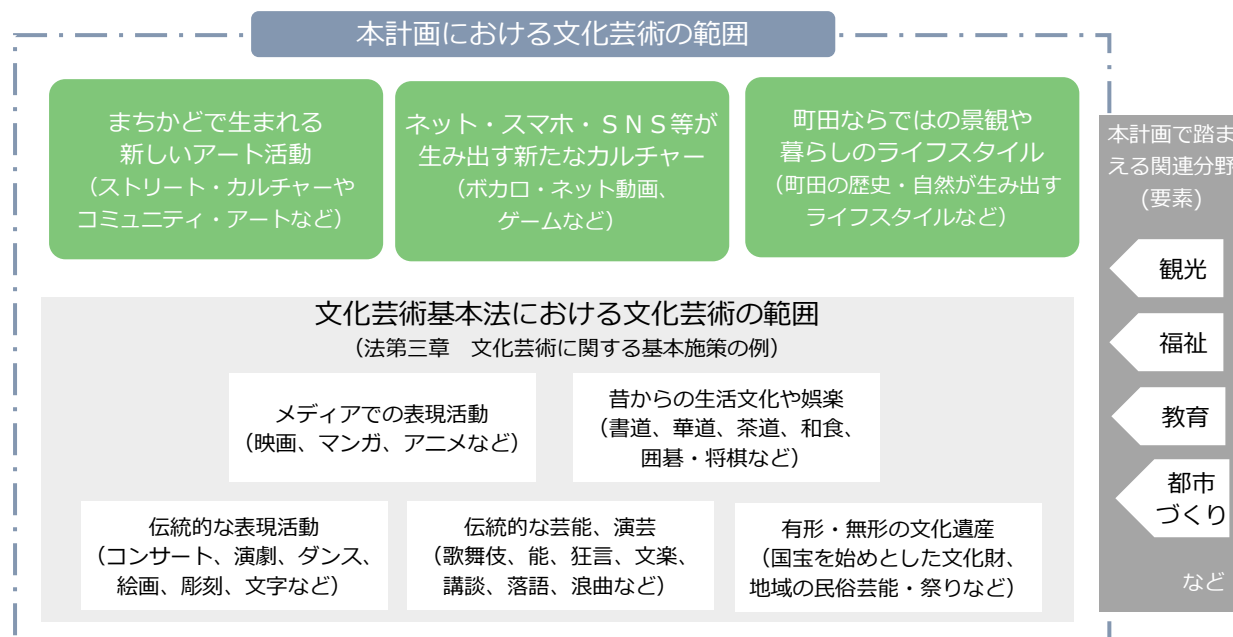
本計画は、「目指す姿」、「方針」、「施策」、「取組」で構成し、目指す姿の実現に向けて、方針に沿って施策や取組を展開します。

また、計画期間は、2026年度から2035年度までの10年間とします。なお、施策に基づく「取組」については、前期（2026～2031年度）と後期（2032～2035年度）に分け、前期終了時に見直します。



(3) 文化芸術の範囲

本計画は、文化芸術によって“まちの賑わいを更に生み出すための「まちづくり計画」”として、文化芸術基本法に規定されている文化芸術の範囲に加えて、町田ならではのライフスタイルや、まちかで生まれる新しいアート、デジタルによる新たなカルチャーなど、多様な取組等も積極的に受け入れられるよう、文化芸術を広く捉えます。



(4) 対象

町田市民を基本とし、町田市に関わる方や訪れる方も含めた全ての方を対象に、文化芸術活動や鑑賞、体験する場の提供等を展開していきます。

(5) 市の役割

市は、本計画で定める“目指す姿”の実現に向けて、計画的に文化芸術のまちづくりを進めるためのプロジェクトや施策を実施します。加えて、市内で行われる文化芸術活動において、(6)に掲げる関係主体のほか、町内会・自治会や福祉団体、まちづくり関連団体等と横断的な連携を図り、文化芸術活動を支えていくとともに、協力して町田市の文化芸術を発展させていきます。

また、文化芸術に関する情報を一元的に発信し、文化芸術の魅力を市内外に広く伝えていきます。

(6) 文化芸術に関わる各関係主体と期待すること

“目指す姿”の実現に向けた文化芸術のまちづくりにあたって、各関係主体が、それぞれの分野を越えて積極的に連携していくことを期待しています。

関係主体	期待すること
文化芸術団体	●文化芸術活動の積極的な展開・既存の取組の拡充 ●市事業への協力、文化芸術に関わる各種団体との連携・協働 など
経済関係団体	●文化芸術事業と中心市街地の再開発事業との連携によるにぎわいづくり ●市の集客力アップのための連携・協働（商店会、商業施設などとの調整含む） など
観光関係団体	●文化芸術事業と観光事業との連携によるにぎわいづくり・イメージづくり など
小・中学校	●児童・生徒への文化芸術体験機会や情報の提供 ●児童・生徒の芸術作品展示イベントへの参加 ●文化系部活動の地域連携、アーティストや指導者の活動の受け入れ ●STEAM 教育の一環として、文化芸術を通じて児童・生徒へ問題解決能力、創造力、表現力を培う学びの実施 など
教育機関（高等学校・大学等）	●生徒・学生への文化芸術情報の提供、保有する文化芸術の専門性の提供・連携 ●各地域に根差した文化芸術機会の提供、創出 など
文化芸術外郭団体	●文化芸術活動の展開と市内外への普及 ●市事業実施への協力 ●文化芸術に関わる各種団体との連携・協働の促進 ●アーティストや指導者の紹介 など
事業者（企業）	●文化芸術活動への協力・連携によるまちづくりの後押し ●まちの賑わい創出による持続可能なまちづくりの推進

文化芸術を育み 笑顔咲くまち ～町田で Let's stART～

* 目指す姿に込めた思い *

<文化芸術を育み>

「育む」の言葉には、文化芸術活動のはじめの一步を踏み出すことや新たに挑戦することで技術的に上達していく、感性を豊かにしていくという意味を込めています。

また、それらに加えて文化芸術に親しむきっかけとなる鑑賞の機会や活動をはじめやすい環境を整える意味のほか、これまで形作ってきた文化芸術を未来に継承していつてもらいたいといった思いも含んでいます。

<笑顔咲くまち>

「素晴らしい作品に出会ったとき」、「できなかったことができるようになったとき」、「作品制作や練習の成果が形になるとき」、私たちは、活力や充実感、達成感を得ます。そして、その先には、一人ひとりの素敵な“笑顔”が花開き、広がっていきます。

本計画を着実に進めていくことで、10年後の町田市では、市内各地で色彩豊かな“笑顔”が咲き、賑わい続けるまちをつくっていくという思いを込めています。

副題：～町田で Let's stART～

文化芸術の鑑賞や活動にあたり、思い立ったタイミングが絶好のはじめ時です。文化芸術を鑑賞したい人、活動したい人など、誰もが町田で文化芸術に触れ、スタートを踏み出せるよう、そして、文化芸術の土壌を育んでいけるよう、目指す姿の副題を～町田で Let's stART～と定めます。

★目指す姿が実現しているまちのようす★

文化芸術のまちづくりによる

まちのイメージ

A 3 見開きでイラスト展開

➡計画概要版への誘導を兼ねる

文化芸術のまちづくりによる

まちのイメージ

A 3 見開きでイラスト展開

➡計画概要版への誘導を兼ねる

4 町田市の特徴と取組

町田市の立地やまちづくりの動き、特徴的な施設などの優位性と、市のこれまでの文化芸術の推進経過を踏まえたうえで計画を策定するとともに、これからの文化芸術のまちづくりに活かしていくため、主な特色と近年の取組を示しています。

(1) 町田市の特色

●文化芸術に親しめる環境が揃っています

町田駅周辺には都会的な賑わいがありながらも、北部には豊かな自然環境が広がっており、都市と緑のバランスがちょうどいいまちです。加えて、市域の外縁にはＪＲ横浜線や小田急小田原線、東急田園都市線、京王相模原線の４路線が通り、首都圏の文化芸術の集積地である東京都心や横浜とは、いずれも３０分程度で結ばれ、交通利便性の高い立地にあります。また、市内や近郊には、芸術系の大学や学部、専門学校が多くあり、文化芸術に親しめる環境が揃っています。



町田市ＨＰ
シティプロモーション
“まちだってこんなまち”

●一人ひとりが輝けるまちづくりを進めています

２０２２年にスタートした「まちだ未来づくりビジョン２０４０」では、誰もが夢を持ち、幸せを感じられるような未来をつくるため、ライフステージに応じて活躍できるまちづくりを進めています。また、「町田市性の多様性の尊重に関する条例（２０２３年）」や「町田市障がい者差別をなくし誰もがともに生きる社会づくり条例（２０２４年）」を施行し、一人ひとりが輝けるまちの実現を目指しています。



町田市ＨＰ
“まちだ未来づくりビジョン
２０４０”



町田市ＨＰ
“性の多様性の尊重
に関する条例”



町田市ＨＰ
“障がい者差別をなくし
誰もがともに生きる
社会づくり条例”

●子どもにやさしいまちづくりを進めています

ユニセフが主唱する「子どもにやさしいまちづくり事業」の実践自治体（全国６市のうちの１市）として承認を受けています。近年は、これまでの“子どもにやさしいまちづくり”が実を結び、０～１４歳の年少人口の転入超過数が全国トップを維持し続けており、多くの子育て家庭に選ばれています。さらに、２０２４年度には「子どもにやさしいまち条例」を施行し、子どもの参画等も積極的に進めています。



町田市ＨＰ
“子どもにやさしいまち条例”

●特徴的な文化芸術関連施設があります

町田駅近くの町田市民文学館ことばらんどでは、J-POP やマンガ、タイポグラフィ等、近代文学の範囲を超えた挑戦的な企画を多数実施しており、高い評価を得ています。また、芹ヶ谷公園には国内唯一、世界でも珍しい版画をテーマとした町田市立国際版画美術館があり、歌川広重の浮世絵等の国内外の著名作品を含む版画のコレクションが3万点以上収蔵されています。さらに、同公園で整備を進めている（仮称）国際工芸美術館は、美術品の魅力を広く伝えるとともに、美術活動をより身近に感じられる空間や、多様な創作活動が行える場として、版画美術館等と一体的な連携を図り、市民がいつでも自由に利用でき、鑑賞や創作・発表などの活動ができる開かれた美術館としていきます。



町田市HP
“町田市民文学館”



“国際版画美術館”



町田市HP
“（仮称）国際工芸美術館
整備”

●町田駅周辺エリアのリニューアルの機運が高まっています

1970年代から80年代の大規模再開発から約50年が経過し、町田駅周辺は街のリニューアルの時期を迎えており、再整備・再開発の検討が進んでいます。

「町田市都市集客機能整備方針（2024年3月策定）」では、都市の集客機能を高めるため、ポップス系コンサートの貸館需要が見込める2,000人前後の音楽・演劇ホールを整備する方向性を示しています。また、「町田駅周辺開発推進計画（2024年6月策定）」に基づいて、駅周辺の新たな賑わいづくりの核となる機能のイメージとして、目的地となるような魅力的なコンテンツを提供するエンタメ施設導入の検討が進んでいます。



町田市HP
“町田市都市集客機能
整備方針”



町田市HP
“町田駅周辺開発推進計画”

●公共施設の複合化・多機能化等によって市民生活の質を高めようとしています

市内の多くの公共施設が整備から40年以上経過し、更新の時期を迎えています。多額の維持管理費の確保が課題となる中、将来にわたって必要な公共サービスを維持・向上させていくため、施設の複合化や多機能化、民間との連携強化、建物の長寿命化などを通じて、維持管理費の削減を進めるとともに、サービス水準を向上していくことで、市民生活の質を高める取り組みを進めています。



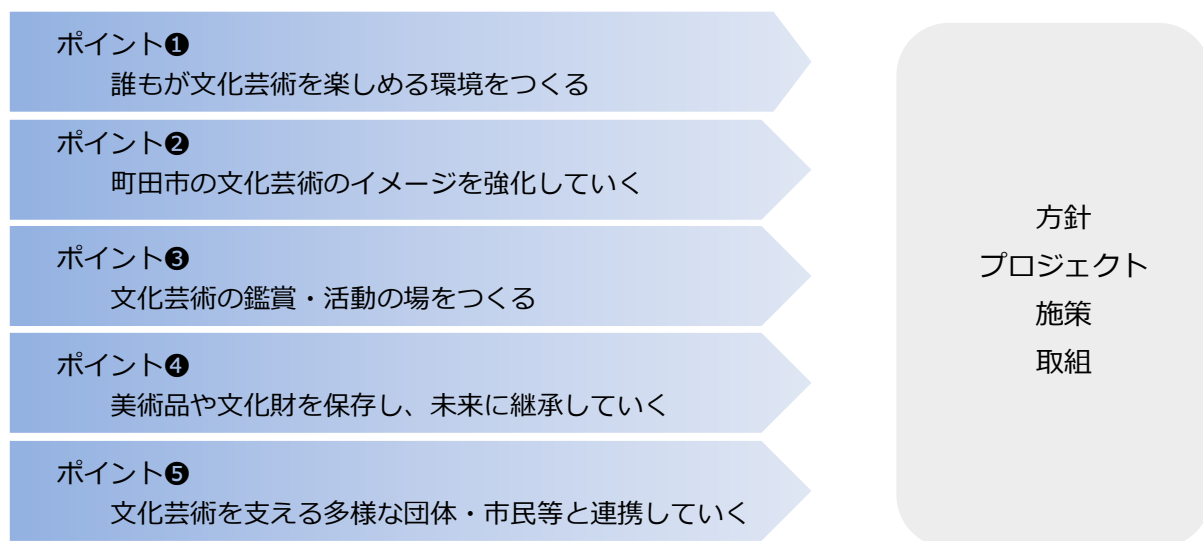
町田市HP
“公共施設マネジメント
に関する取り組み”

(2) 近年の文化芸術の取り組み



5 文化芸術のまちづくりに向けたポイント

現状把握や各種調査・ヒアリング等から課題を洗い出し、文化芸術のまちづくりに向けた方針や施策等を明らかにするための「ポイント①～⑤」を整理しました。



課題①

誰もが気軽にあらゆる文化芸術を楽しめるよう、鑑賞や体験の機会を広げる必要があります

課題②

町田市の文化芸術の認知度を上げ、最大限に活用していく必要があります

課題③

町田駅周辺の中心市街地再整備・再開発等を踏まえ、文化芸術を鑑賞する場や市民が活動を行う場を整備する必要があります

課題④

市が誇る美術品や史跡、建造物、民俗芸能等の有形・無形文化財を適切に収集・保存し、次世代に継承していく必要があります

課題⑤

文化芸術活動を未来につなぎ、発展させていくため、多様な人や団体等と連携していく必要があります



ポイント① 誰もが文化芸術を楽しめる環境をつくる

◆課題解決のキーワード：鑑賞・体験の機会の充実

○ 課題

誰もが気軽にあらゆる文化芸術を楽しめるよう、
鑑賞や体験の機会を広げる必要があります。

○ 現状、意識調査・アンケート、みなさんの思い

小規模のホールが充実
している

町田市民ホール（862 席）をはじめ、和光大学ポプリホール鶴川（300 席）、市民センターにある多目的ホールなどの公共施設のほか、桜美林芸術文化ホールなど、小規模のホールが市内に多くあります。

全国レベルの演技や演奏
が身近にある

市内の学校には、全国コンクールの上位に入賞する吹奏楽部や合唱部があり、文化系の部活動が活発に行われています。また、市内のホールでは、まちだ全国バレエコンクールや全国町田ピアノコンクールなど、全国レベルの演技や演奏を体感できる機会があります。

文化芸術を鑑賞する人の
割合が低い
（市民意識調査）

市民がホールや劇場、美術館、博物館等で文化芸術を鑑賞する割合は 66.6%であり、全国（67.3%）をやや下回っています。
また、介護・介助が必要な方や障がいのある方々の文化芸術の鑑賞割合は（介護等 29.2%、障がい 47.1%）、そうでない方（69.9%）に比べて低い結果となっています。

子どもへの文化芸術体験
が重要視されている
（市民意識調査）

市民が重要だと思う中学生以下の子どもの文化芸術体験として、「興味を持つきっかけとなる多様な機会の提供」や「学校での鑑賞や体験」などが重要と回答しています。

文化芸術活動団体への
新規加入者が少ない
（団体アンケート調査）

団体活動における課題として 60.2%の団体が、新規加入者が少ないことを挙げています。

若者の教育に生の文化芸術の鑑
賞と体験があるといい

もっと活動を発表できるような
機会がほしい

大規模ホールがあれば、有名ア
ーティストの公演を町田で鑑賞
する機会が増え、うれしい

演劇表現活動に触れる機会をも
っと増やせば、文化芸術の町田
になる

障がい者の文化芸術に関する展
示会があると作家のモチベーシ
ョン向上や発掘にもつながる

ポイント② 町田市の文化芸術のイメージを強化していく

◆課題解決のキーワード：市内の活動の認知度向上

○ 課題

町田市の文化芸術の認知度を上げ、
最大限に活用していく必要があります。

○ 現状、意識調査・アンケート、みなさんの思い

日本有数の美術品を保有
している

町田市立国際版画美術館には、歌川広重の浮世絵等の国内外の著名作品を含む版画のコレクションが3万点以上、町田市立博物館にはボヘミアン・グラス等のガラス工芸品や中国・東南アジアなどの陶磁器等のコレクションが1万点以上収蔵されています。

民間の文化芸術活動が
盛んで、多様に展開され
ている

茶道、華道、伝統芸能、美術、ジャズ、民族音楽等多彩な市民文化芸術団体が町田市民ホールや市民センターを利用して活発に活動しています。クラシック、音楽、オペラ、バレエ等の分野では、プロとアマチュアの双方が連携する長い活動の歴史があります。
また、全国的に活動を広げる「音楽座ミュージカル」の拠点があるほか、町田駅前の「まほろ座」では、落語やご当地アイドルのプロデュースを実施するなど、多様な文化芸術活動が展開されています。
更に、小・中学生の作品を、市役所をはじめとした町田市内の施設や店舗に展示して、各地域の皆さんに楽しんでいただく「まちかど子どもギャラリー」の活動が広がっています。

文化芸術活動や資源の
魅力がうまく伝わって
いない（市民意識調査）

文化芸術のイメージについて「特にない」、「無回答」が多くなっています。

文化芸術分野において
デジタル技術を使った
魅力発信が欠かせない
（市民意識調査）

ホールや美術館で直接鑑賞しなかった理由として「インターネットで鑑賞したから」が多くなっています。

他の分野や地域・学校と
の連携した活動が少ない
（団体アンケート調査）

他の分野の団体と連携した活動に取り組んでいる団体は24.1%にとどまっています。また、地域や学校と連携した活動に取り組んでいる団体も35.2%と、連携した活動が少なくなっています。

版画美術館や文学館、生涯学習
センターは他市より優れている

色んな団体が出られるお祭り、
イベントをもっと企画したい

「演劇の日」「朗読の日」「映画
の日」など設けて、多くの作品
に触れる機会をつくってほしい

沢山のチームや団体が盛り上がる
ようなイベントを企画してほしい

子どもが体験できるようなイベ
ントがあるといい

文化芸術面の“町田らしさ”をも
っと広報してほしい

ポイント③ 文化芸術の鑑賞・活動の場をつくる

◆課題解決のキーワード：鑑賞・活動する場の充実

○ 課題

町田駅周辺の中心市街地再整備・再開発等を踏まえ、文化芸術を鑑賞する場や市民が活動を行う場を整備する必要があります。

○ 現状、意識調査・アンケート、みなさんの思い

子どもや若者が文化芸術活動を始めやすい環境が揃っている

市内 12 か所にある子どもセンターや子どもクラブには、一部に音楽室や防音室を備えており、子どもや若者が文化芸術活動を始めやすい環境があります。

文化芸術活動の発表や練習の場の中心を担う市民ホールの老朽化

市内で活動する文化芸術団体にとって発表や創作、練習等で利用してきた町田市民ホールはオープンからまもなく 50 年を迎えます。過去に検討を進めてきた文化芸術ホールや、町田駅周辺への導入を検討している音楽・演劇ホール等を踏まえ、今後のあり方について検討する時期にあります。

ポップ・カルチャーの郊外拠点となっている

市内には、8 校の大学、9 校の専門学校があり、交通の利便性も高いことから、学生を中心に多くの若者が町田を拠点に活動しています。また、市内にはライブハウスも多くあり、ポップ・ミュージックの活動が盛んです。加えて、ストリート系のダンスをする若者も多く、ポップ・カルチャーの拠点となっています。

市民の文化芸術活動が活発に行われている
(市民意識調査)

文化芸術に関わる活動（創作や出演、習い事、体験活動への参加など）をした市民の割合は 29.5%と、全国 21.7%と比較しても高い傾向にあります。

町田エリアで音楽・演劇活動が活発に行われている
(団体アンケート調査)

75%の団体が町田エリア（町田・玉川学園地区）で活動を行い、音楽（オーケストラ、吹奏楽、合唱、ポップス等）や演劇・舞踊（15.7%）の活動が多くなっています。

設備の充実した本格的なホールを設立してもらいたい

練習する場や制作する場がほしい

文化芸術のシンボルとなり、子どもも大人も楽しめるような多目的ホールがほしい

町田駅前に高齢者でも楽に駅から歩けるホールがあるといい

練習の成果を発表する場や機会がもっとあるといい

ダンスや音楽フェスなど、発表の場がたくさんあれば、町田での活動が広がると思う

ポイント④ 美術品や文化財を保存し、未来に継承していく

◆ 課題解決のキーワード：資源の保存・継承

○ 課題

市が誇る美術品や史跡、建造物、民俗芸能等の
有形・無形文化財を適切に収集・保存し、
次世代に継承していく必要があります。

○ 現状、みなさんの想い

他市を圧倒する量・質の
美術品コレクションを
収蔵している

国際版画美術館や博物館には、数万点もの美術品コレクションを収蔵しています。

(仮称)国際工芸美術館の
整備を進めている

市が誇る美術品の魅力を広く伝えるとともに、美術活動をより身近に感じられる空間や、多様な創作活動が行える場として、芹ヶ谷公園“芸術の杜”への（仮称）国際工芸美術館の整備を進めています。

貴重な有形文化財や
遺跡が数多く残っている

国の指定史跡や重要文化財、都の指定文化財など、市内には貴重な文化財や遺跡が数多く残っています。特に、遺跡は縄文時代を中心に市内に 900 か所発掘されており、町田の歴史を示す極めて貴重な資産です。

無形民俗文化財の担い手
が不足している

市内で伝承されてきた獅子舞やお囃子などの無形民俗文化財の担い手の確保が難しくなっています。

伝統芸能を継承していくためには小学生や中学生など、若い人への教育が必要

文化財を実際に見てみたい。珍しい感じがする。学校では習っていないので興味がある。

TV で見るとより、行ってみたい。知らないものをやってみよう。

ポイント⑤ 文化芸術を支える多様な団体・市民等と連携していく

◆課題解決のキーワード：多様な担い手による活動の推進

○ 課題

文化芸術活動を未来につなぎ、発展させていくため、
多様な人や団体等と連携していく必要があります。

○ 現状、みなさんの思い

市民が主体的に活動できる
土壌が整っている

まちだ〇ごと大作戦 18-20⁺¹や、二十祭まちだ、まちだ若者大作戦など大人や子ども・若者が自分たちのやりたいことを、自ら叶える取り組みを通じて、市民が主体的に活動できる土壌が整っています。

文化芸術団体の会員の
高齢化に加え、会員数が
減少している

茶道や華道、書道等の伝統文化を始めとする文化団体、クラシック音楽やオペラ、バレエ団体などが数多くある一方、会員の高齢化や、新規会員の獲得が難しいなど、会員数が減少しています。

若手アーティスト等が
育つ環境がある

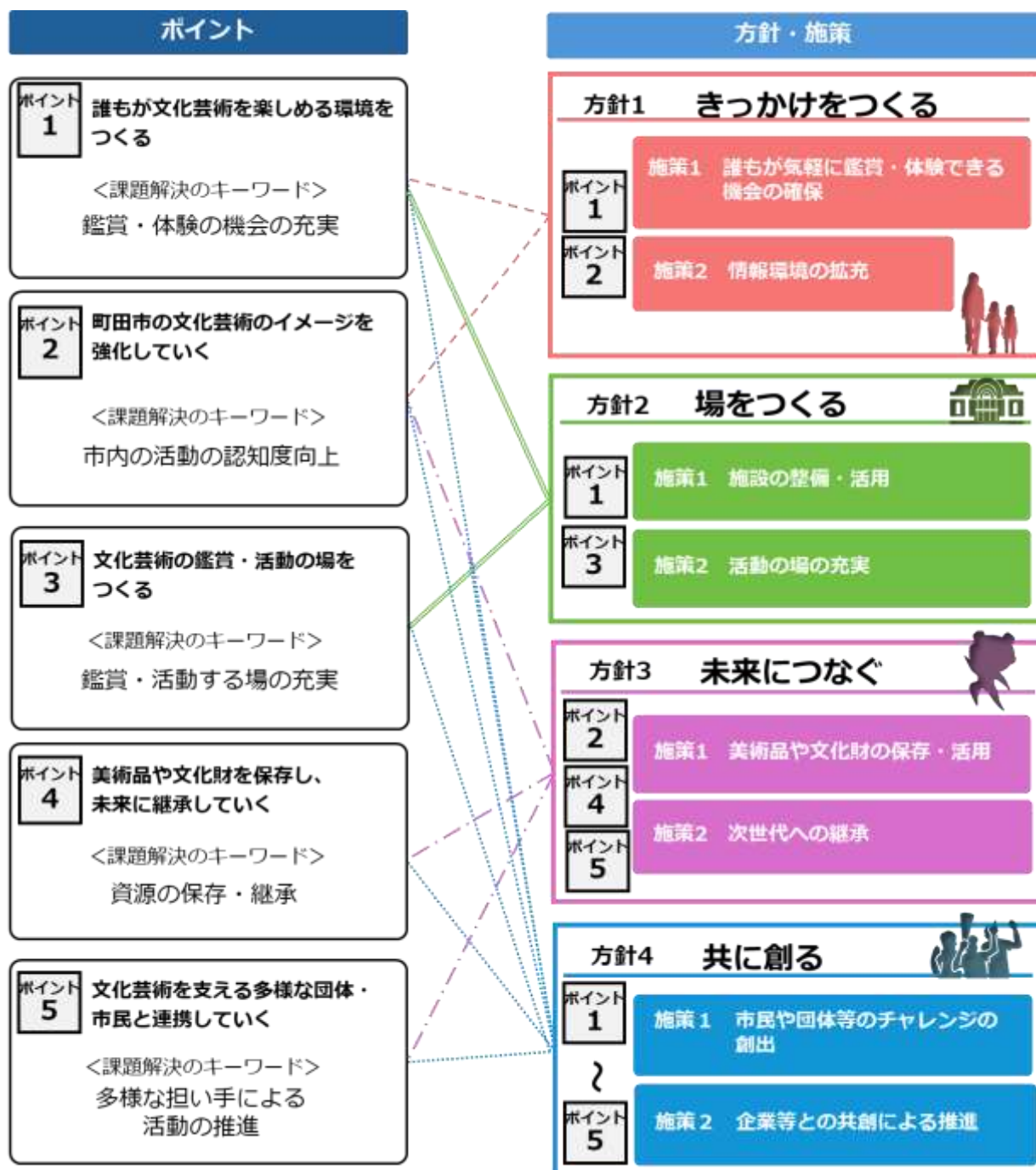
市内や周辺には、芸術系の大学や学部が多くあり、若手アーティストを育てる環境が整っています。また、若者のバンド活動やストリート系ダンスも活発に行われています。

市民や市民団体の力を借りられ
るよう、市と市民が協働できる
仕組みをつくってほしい

高齢者や障がい者など、多様性
を尊重するような風土をつくっ
て活動が活発になるといい

6 方針と施策

現状や課題、みなさんの想いから導いたポイントや課題解決のキーワードから、文化芸術のまちづくりにあたっての4つの「方針」と「施策」を示します。



7 計画体系

方針1～3に沿って、市が主体となり各施策を推進するとともに、方針4に基づいて市民や団体等のチャレンジの創出や多様な主体との共創の視点を取り入れ、市民や団体、企業等とともに目指す姿を実現し、文化芸術のまちをつくっていきます。

また、方針1～4を横断する文化芸術プロジェクト「まちだ Smile-link project（スマイルリンクプロジェクト）」を立ち上げ、文化芸術のまちづくりを強力に推し進めます。

文化芸術を育み 笑顔咲くまち ～町田で Let's stART～

～まちだ Smile-link project（スマイルリンクプロジェクト）～

- Project A 文化芸術で“みんなの夢”を叶える
- Project B 文化芸術大型イベントの実現
- Project C 「文化芸術にぎわい創出エリア」の活性化

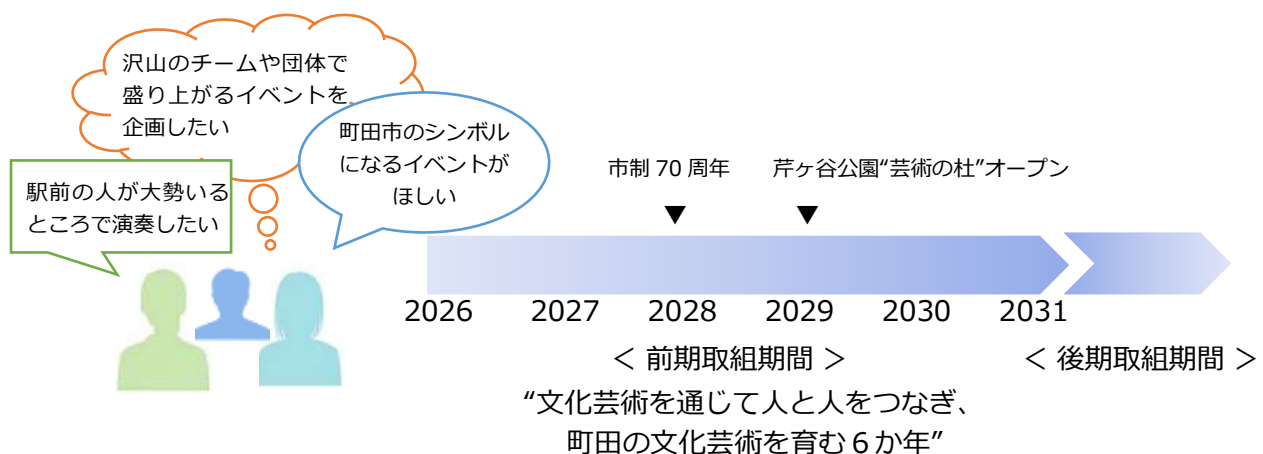


8 文化芸術プロジェクト

～まちだ Smile-link project (スマイルリンクプロジェクト) ～

「文化芸術を育み、笑顔咲くまち～町田で Let's stART～」の実現に向けて、文化芸術活動によって生まれた笑顔の輪を広げ、未来につなげていくため、前期の事業期間となる 2031 年度までを、“文化芸術を通じて人と人をつなぎ、町田の文化芸術を育む 6 か年”と位置付けます。

そして、方針を横断したプロジェクト総称を「まちだ Smile-link project (スマイルリンクプロジェクト)」と定めて、A～C の 3 つのプロジェクトを実行し、文化芸術のスタートを踏み出せるよう、きっかけをつくっていきます。また、実行にあたっては、リアルな体験はもちろん、デジタルの要素も活用し、融合させながら展開していきます。



Project A

文化芸術で“みんなの夢”を叶える

Project B

文化芸術大型イベントの実現

Project C

「文化芸術にぎわい創出エリア」の活性化

Project A

文化芸術で“みんなの夢”を叶える

まちだ〇ごと大作戦 18-20⁺1 やまちだ若者大作戦など、市民主体のまちづくりの経験を存分に活かし、来たる 2028 年の市制 70 周年の節目を、文化芸術でまちが一つになる好機と捉え、「(仮称) 文化芸術版〇ごと大作戦」を実施します。

異なる分野の多様な主体がコラボレーションし、文化芸術を通じたまちづくりを前提として、みなさんの夢（やりたいこと）を叶える仕組みを整え、実行することで、新たなコミュニティを形成し未来につながる活動を育んでいきます。

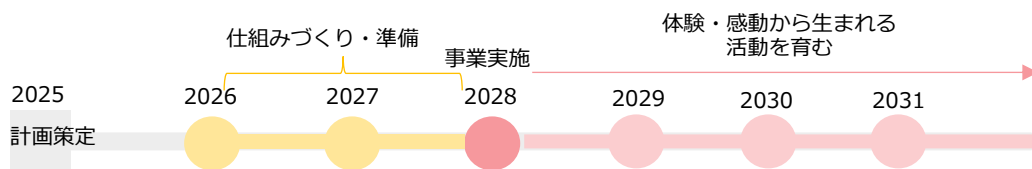


イラスト挿入

Project B

文化芸術大型イベントの実現

地域や民間事業者等とコラボレーションし、町田市を象徴するような大型イベントを実施します。そのことで、まちの一体感を育み、イベントに関わる人、参加する人たちと喜びや感動を共有するとともに、憧れや関心を集めて、新たなチャレンジや Re：スタートを踏み出せるような、きっかけをつくります。



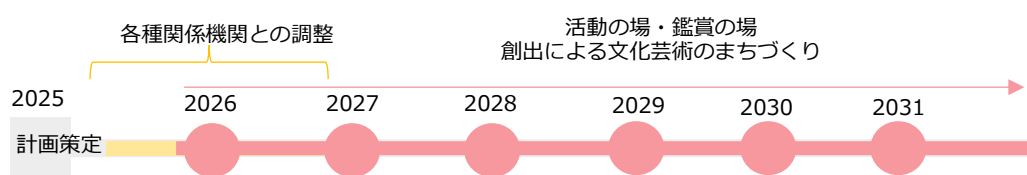
イラスト挿入

Project C

「文化芸術にぎわい創出エリア」の活性化

「町田市中心市街地まちづくり計画」においては、町田駅周辺の中心市街地の賑わい創出に向けて、文化芸術が欠かせないものと位置付けています。このことから、町田駅周辺の再整備・再開発を見据え、文化芸術活動や施設が集積し、多様に展開されている町田駅周辺地域を「文化芸術にぎわい創出エリア」と定め、一段とにぎわいを活性化させていきます。

そして、再整備・再開発エリアにおける映画館の誘致や音楽・演劇ホールを導入に向けて、公共空間における音楽活動や文化芸術活動の実施など、文化芸術の活動の場や鑑賞する場を整えることで、本エリアを基軸として、市民の文化芸術の活動や鑑賞の展開、市外からの来訪促進を図ることで、市域全体へとにぎわいを広げていきます。



イラスト挿入

9 施策と取組

(1) 方針に基づく取組

市は、方針1～4を横断して実施する「まちだ Smile-link project (スマイルリンクプロジェクト)」に加えて、方針1～3に沿って施策ごとに取組を設定し、期間内に事業化し、実施することで、10年後に花開き「町田の特色」と言えるような文化芸術の種を育てていきます。

なお、取組の実施にあたっては、方針4に基づいて、多様な主体との共創やチャレンジを創出する視点を取り入れ、充実を図ります。

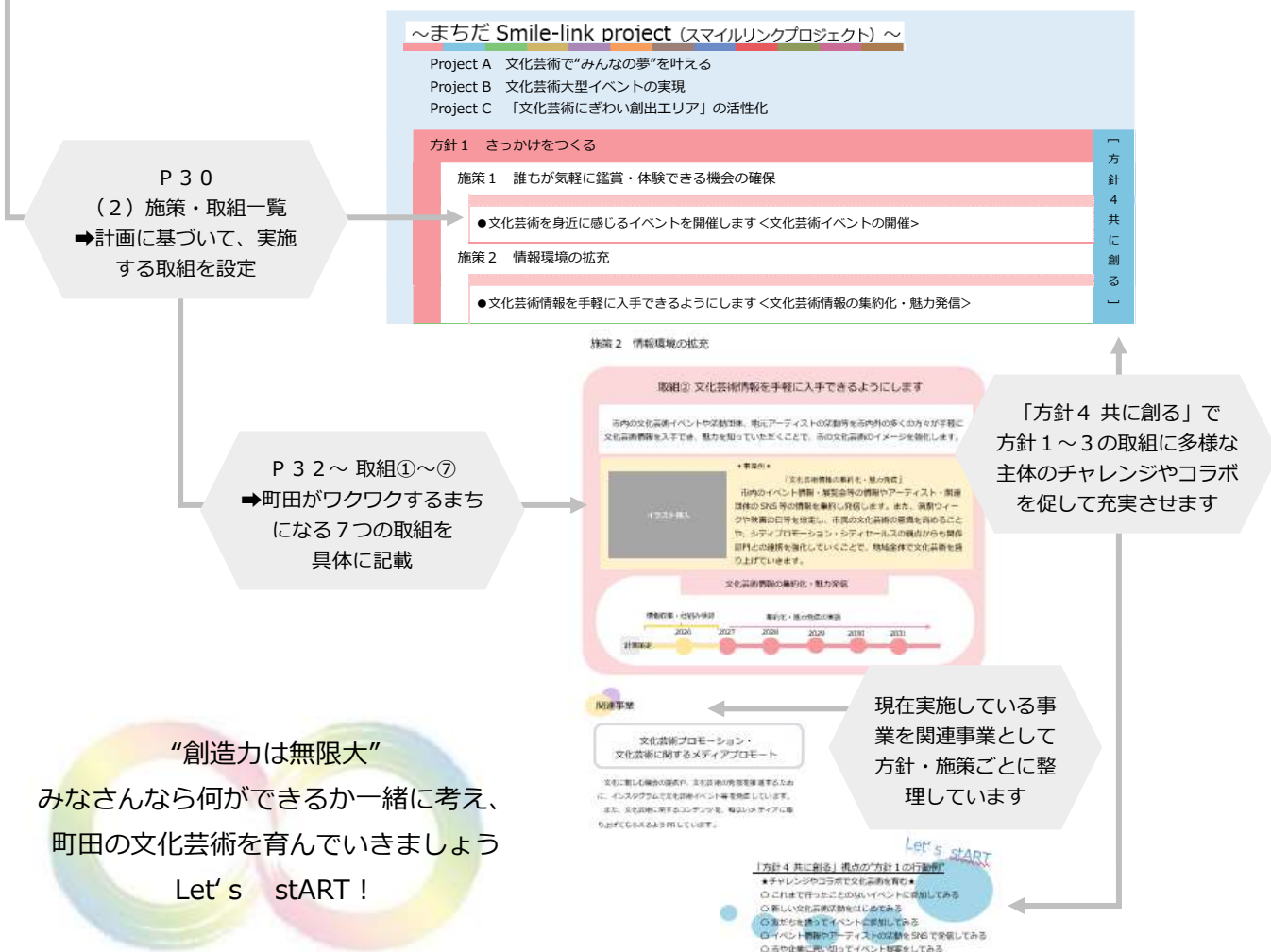
～まちだ Smile-link project (スマイルリンクプロジェクト)～

文化芸術を通じて人と人をつなぎ、町田の文化芸術を育むため、
方針1～4を横断し実施する重点プロジェクト



各方針・施策に沿った“取組”

プロジェクトに加えて、各方針・施策に沿って実施する取組です。施策ごとに1～2つの取組を設定しており、期間内（前期：2026～2031年度）に事業化し、実施することを目指します。



(2) 施策・取組一覧

～まちだ Smile-link project (スマイルリンクプロジェクト) ～

Project A 文化芸術で“みんなの夢”を叶える

Project B 文化芸術大型イベントの実現

Project C 「文化芸術にぎわい創出エリア」の活性化

方針1 きっかけをつくる

施策1 誰もが気軽に鑑賞・体験できる機会の確保

取組① 文化芸術を身近に感じるイベントを開催します<文化芸術イベントの開催>

施策2 情報環境の拡充

取組② 文化芸術情報を手軽に入手できるようにします<文化芸術情報の集約化・魅力発信>

方針2 場をつくる

施策1 施設の整備・活用

取組③ 新たなホールの整備を進めます<音楽・演劇ホールの整備>

取組④ 文化芸術活動のための練習の場・制作の場を増やします<練習・制作の場の創出>

施策2 活動の場の充実

取組⑤ 公共空間等でアーティスト活動ができるようにします
<アーティストの活動フィールド創出・拡充>

方針3 未来につなぐ

施策1 美術品や文化財の保存・活用

取組⑥ デジタルの力で、町田の美術品や文化財の魅力を伝え、未来に残していきます
<デジタルミュージアムの推進・活用>

施策2 次世代への継承

取組⑦ 子どもたちの文化芸術を「する」体験を増やし、未来に育んでいきます
<文化芸術 体験型ワークショップの実施>

方針4 共に創る

施策1 市民や団体等のチャレンジの創出

施策2 企業等との共創による推進

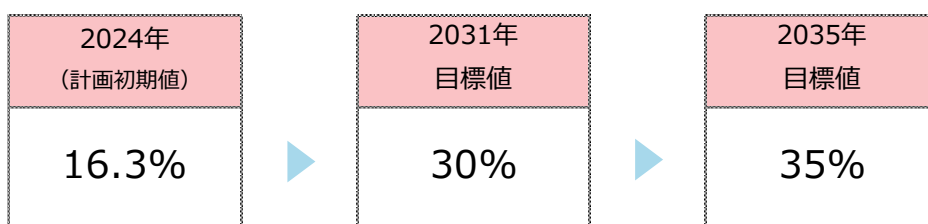
「方針4 共に創る」に基づくコラボレーションやチャレンジの視点

方針1

きっかけをつくる

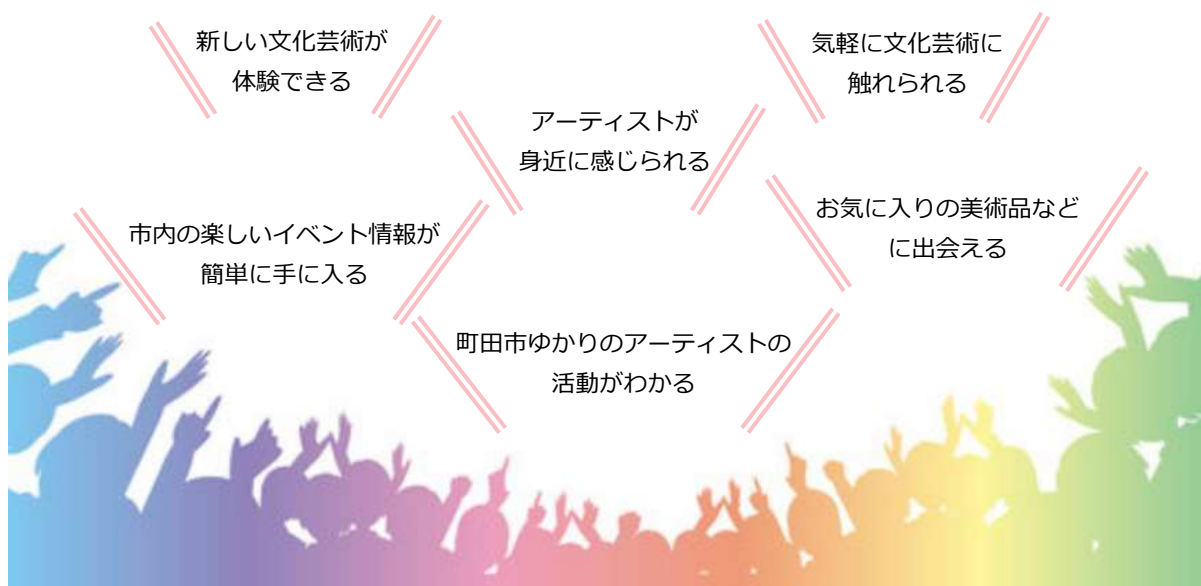
誰もが文化芸術活動をスタートしやすくなるよう、鑑賞や体験ができる環境を整えるとともに、そのきっかけとなる情報発信を積極的・効果的に行うことで、文化芸術が身近にある暮らしを実現します。

指標	市内で文化芸術活動・鑑賞する機会を持つことができた市民の割合
----	--------------------------------



2026年度から実施する「文化芸術イベント」や「まちだ Smile-link project」におけるプロジェクトA（2027年度～2029年度）・プロジェクトB（2028年度）を実施することで、活動や鑑賞のきっかけをつくり、数値を高めていきます。

方針に沿ったまちづくりでふくらむ、いいこと



施策1 誰もが気軽に鑑賞・体験できる機会の確保

取組① 文化芸術を身近に感じるイベントを開催します

誰もが気軽に文化芸術に触れ、その魅力を体験できるよう、文化芸術イベントを開催します。そして、感動や特別な時間を得る機会を提供することで、はじめの一歩としてのきっかけをつくります。



実施例

大成功を収めた実証事業「文化芸術イベント推進事業」

2025年5月に実証的に実施した「無料特別公演 音楽座ミュージカル「リトルプリンス」では、普段、本格的な舞台芸術に気軽に触れることが難しい障がい者や、未就学児を連れた家族も気兼ねなく参加できるよう、離席自由、歩き回ることができる、声をあげても構わないなどの配慮を講じた公演（インクルーシブ公演）を実施し、迫力ある生の演劇を間近で鑑賞いただくことで、多くの方に文化芸術の魅力を感じていただきました。

文化芸術イベントの開催



関連事業

芹ヶ谷公園“芸術の杜” 推進イベント

芹ヶ谷公園“芸術の杜”の再整備に向けて、多様な文化芸術活動や芹ヶ谷公園の豊かな自然に触れ、学び、楽しむことができる新しい体験型の公園を目指して、市民参加型のイベント（Future Park Lab（フューチャーパークラボ）など）を実施しています。

地産地 SHOW

町田市ゆかりのアーティストの活動支援を行うとともに、多くの方々が、気軽に文化芸術に触れられるイベントを実施しています。

ふれあい落語・ コンサート

市内の市民センターを利用して、文化芸術に気軽に触れられるきっかけづくりとして、落語やコンサートを実施しています。

施策 2 情報環境の拡充

取組② 文化芸術情報を手軽に入手できるようにします

市内の文化芸術イベントや活動団体、地元アーティストの活動等を市内外の多くの方々が手軽に文化芸術情報を入手でき、魅力を知っていただくことで、市の文化芸術のイメージを強化します。

* 事業例 *

「文化芸術情報の集約化・魅力発信」

市内のイベント情報・展覧会等の情報やアーティスト・関連団体の SNS 等の情報を集約し発信します。また、演劇ウィークや映画の日等を設定し、市民の文化芸術の意識を高めることや、シティプロモーション・シティセールスの観点からも関係部門との連携を強化していくことで、地域全体で文化芸術を盛り上げていきます。

イラスト挿入

文化芸術情報の集約化・魅力発信



関連事業

文化芸術プロモーション・ 文化芸術に関するメディアプロモート

文化に親しむ機会の提供や、文化芸術の発展を推進するために、インスタグラムで文化芸術イベント等を発信しています。

また、文化芸術に関するコンテンツを、幅広いメディアに取り上げてもらえるよう PR しています。

「方針 4 共に創る」視点の“方針 1 の行動例”

★チャレンジやコラボで文化芸術を育む★

- これまで行ったことのないイベントに参加してみる
- 新しい文化芸術活動をはじめてみる
- 友だちを誘ってイベントに参加してみる
- イベント情報やアーティストの活動を SNS で発信してみる
- 市や企業に思い切ってイベント提案をしてみる

PICKUP!

外部団体等が主体となっている取り組みの紹介

(水曜午後の音楽会)

外部団体等が主体となっている取り組みの紹介

(まちだユースシアター)

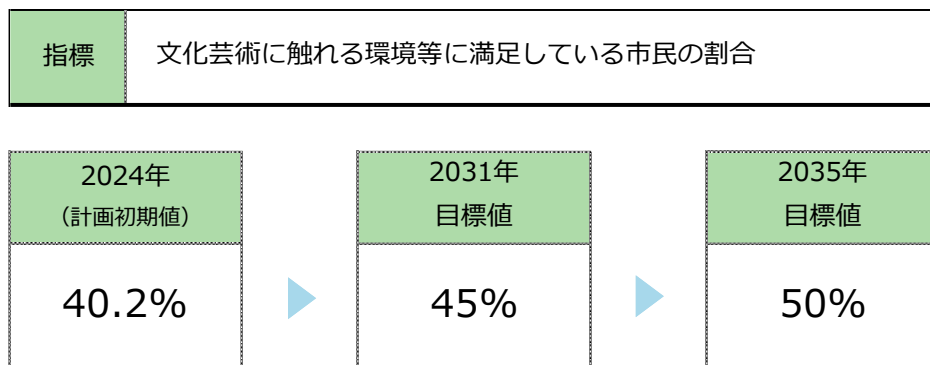
外部団体等が主体となっている取り組みの紹介

(まちだアーティストバンク)

方針 2

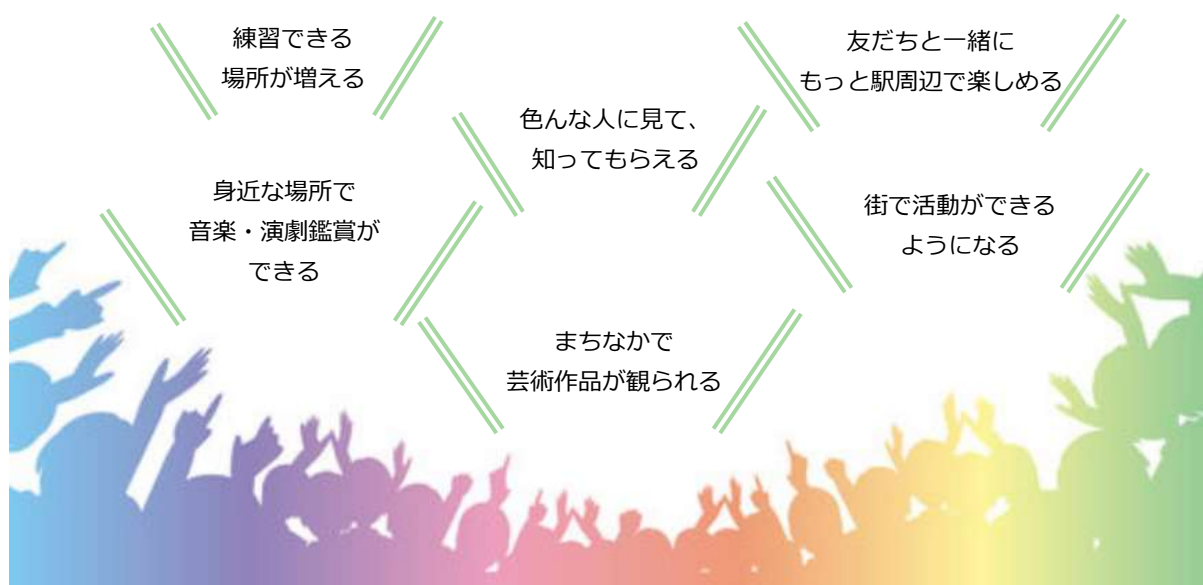
場をつくる

町田の立地や自然を活かした文化芸術の活動・鑑賞の場をつくとともに、基盤となる拠点を整備・活用していきます。



文化芸術以外の公共施設をはじめ、民間施設や公共空間において文化芸術活動が行える新たなフィールドを増やしていくことや、芹ヶ谷公園“芸術の杜”「美術エリア」を整備することで、活動側も鑑賞側も更に満足できる環境を整えていきます。

方針に沿ったまちづくりでふくらむ、いいこと



施策1 施設の整備・活用

取組③ 新たなホールの整備を進めます

町田駅周辺では、民間事業者による再開発の機運が高まる中、映画館や音楽・演劇ホールなどの新たな都市機能を導入することで、エンターテインメントによる「誰かと一緒に楽しめるまちづくり」が進んでいます。

これまで整備を目指してきた文化芸術ホールについては、「文化芸術ホール整備に向けた基本的な考え方（2017年度策定）」に示した要素を踏まえながら、エンタメ施設としての音楽・演劇ホールとして整備を進めていくことで、国内外の人気アーティストの音楽や演劇を鑑賞する場をつくり、文化芸術の振興を図っていきます。

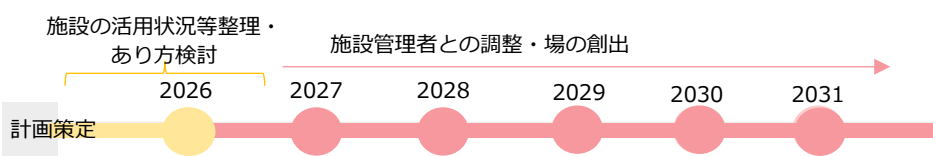
音楽・演劇ホールの整備



取組④ 文化芸術活動のための練習の場・制作の場を増やします

文化芸術活動のための新たな練習の場や制作の場を増やすため、文化芸術以外の公共施設等を活用できるようにします。

練習・制作の場の創出



関連事業

芹ヶ谷公園“芸術の杜” 「美術エリア」の整備

町田らしい多様なアート・カルチャーを体現する魅力的な企画や イベントが、美術館にとどまらず、緑あふれる公園の空間やまちなかと一体となって展開されている“芸術の杜”ならではの美術館等を整備しています。

地域センター諸室の 貸出

市民活動や文化活動のため、市民センター・コミュニティセンターのホールや音楽室、会議室等の諸室を貸出しています。

施策2 活動の場の充実

取組⑤ 公共空間等でアーティスト活動ができるようにします

公共空間等において、アーティストが自由に活動できる場を創出することで、アーティスト自身の創造性を高めるとともに、市民が日常生活の中で自然と文化芸術に触れ、賑わいを感じられるようなまちづくりを推進します。

イラスト挿入

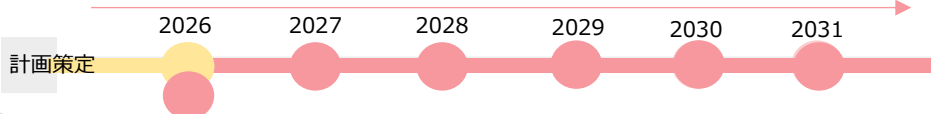
事業例

「アーティストの活動フィールド創出・拡充」

道路空間やみどり空間等において、音楽活動やストリートパフォーマンス、アート活動、作品展示など、まちなかの様々な場所をアーティストの活動フィールドとしていくことで、アーティストの可能性を広げていきます。

アーティストの活動フィールド創出・拡充

関係機関との調整・場所の選定・実施



関連事業

みんな笑顔の展覧会

市内の障がい福祉施設で、生活指導の活動取り組みから、様々な工作作品を作成している事業所が多くあります。利用者が制作する作品類を集めて、市役所イベントスタジオにて展示し、障がい者福祉施設の魅力を周知、PRしています。

活動成果、 演芸・作品発表会

生涯学習センターでは、センターで活動するサークルや団体の日頃の活動成果を発表する生涯学習センターまつりを実施しています。
また、ふれあい館では、利用者による演芸や作品発表、盆踊りを実施しています。

「方針4 共に創る」視点の「方針2の行動例」

★チャレンジやコラボで文化芸術を育む★

- お気に入りの活動場所をシェアして賑やかにしてみる
- 新しいホールの舞台に立てる一流アーティストを目指してみる
- 文化芸術活動の場として店舗等の場を提供してみる
- コミュニティアートを活用したまちづくりを実践してみる
- 公共空間のアートで多くの人を癒してみる

PICKUP!

コラム挿入

(芹が谷公園“芸術の杜”整備)

外部団体等が主体となっている取り組みの紹介

(市民文化祭)

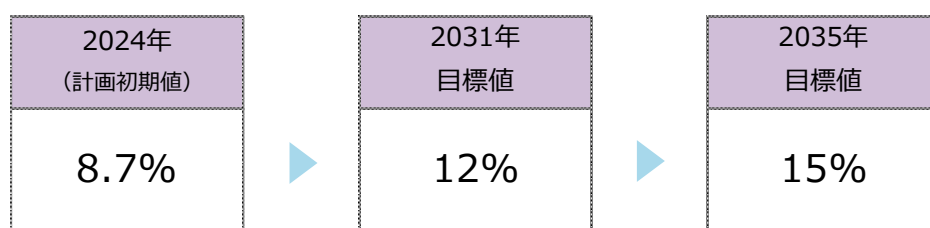
方針3

未来につなぐ

市の貴重な資産であり、歴史を物語る美術品や文化財を保存・活用します。また、文化芸術活動が続けられてきた土壌を守り、文化芸術を担う人財のもつ技術や想いを次世代につなげていきます。

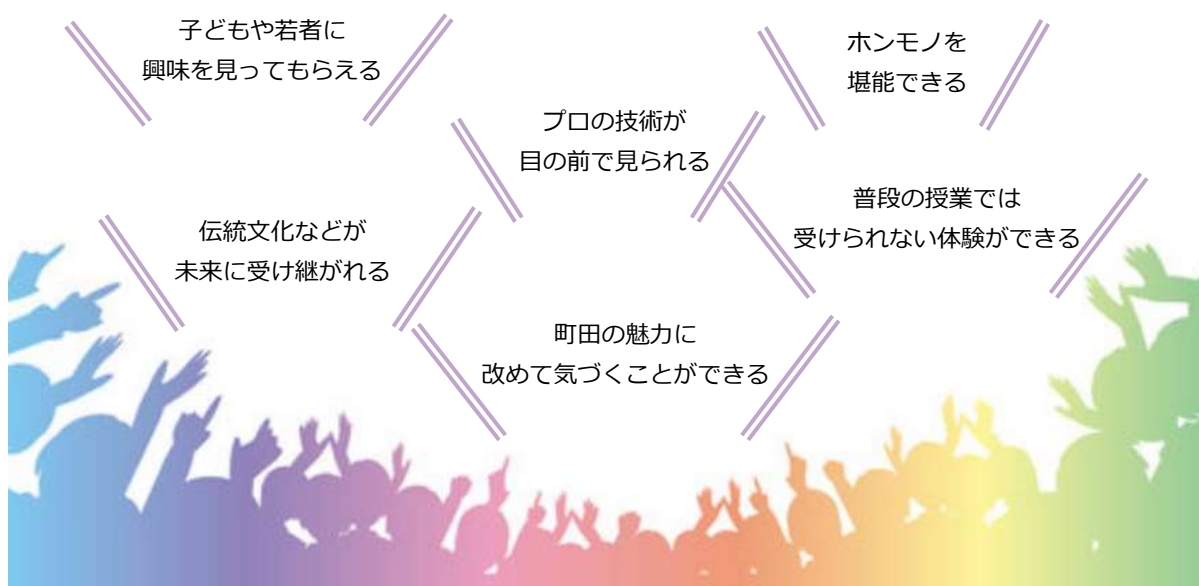
指標

文化財、遺跡、歴史的な街並み、伝統芸能等の継承と保存が大切にされていると思う市民の割合



市が誇る美術品や文化財をデジタルアーカイブ化し、現在の保存・活用状況を見て、知って興味を持ってもらうことや、実際に文化芸術を「する」体験を増やすことで、未来に残していく大切さを学び、継承と保存に関する割合を高めていきます。

方針に沿ったまちづくりでふくらむ、いいこと



施策1 美術品や文化財の保存・活用

取組⑥ デジタルの力で、町田の美術品や文化財の魅力を伝え、未来に残していきます

市が誇る美術品や考古・歴史・民俗資料等を適切に保存するとともに、デジタルアーカイブ化して活用することで、その魅力や町田の歴史に興味を持ってもらい、未来に残していきます。

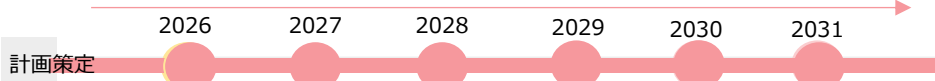


事業例 「デジタルミュージアムの推進・活用」

市が収蔵する日本有数の美術品をデジタルアーカイブ化し、市内外の方々に知ってもらい、魅力を伝えることで、実際に見て、楽しんでいただけるような仕掛けを展開していきます。また、現在公開している考古・民族・歴史資料等の町田デジタルミュージアムを、学校教育やイベント等に活かし、歴史や文化への理解を深めることで、次の世代につなげていきます。

デジタルミュージアムの推進・活用

美術品のデジタルアーカイブ化、
町田デジタルミュージアムの推進・拡充



関連事業

美術・工芸の魅力を伝える 展示の実施

国際版画美術館の歌川広重の東海道五拾三次などの版画作品コレクションや、博物館の東南アジアの陶磁器コレクション、ボヘミアン・グラスなどの工芸品を展示しています。

また、国際版画美術館では、企画・特集展示として、講演会、ギャラリートーク、鑑賞イベント、製作を伴うイベントやコンサートなど、通年で美術や工芸の魅力を伝えています。

文化財、歴史資料の デジタル公開

町田市が収蔵する2,000点以上の考古、歴史、民俗資料をインターネット上で閲覧できるサービス「町田デジタルミュージアム」を公開し、いつでも、どこでも町田の歴史を楽しむ環境を提供しています。

市域資源を活かした展示

本物に触れることができるよう、市立自由民権資料館や考古資料室、三輪の森ビジターセンター内郷土資料展示室、本町田遺跡公園ガイダンスルームにて、土器や古文書、民具などの資源を活用した展示を実施しています。

施策 2 次世代への継承

取組⑦ 子どもたちの文化芸術を「する」体験を増やし、未来に育んでいきます

アーティストとの共演や共作、伝統文化等の体験を通じて、未来に歴史や技術等を受け継いでいけるよう、文化芸術を「する」体験の機会を提供していきます。

イラスト挿入

* 事業例 * 「体験型ワークショップ等の開催」

子どもたちとアーティストとの共演や共作等が行える体験型のワークショップを開催し、市内で育まれてきた歴史やアーティストが研鑽してきた技術等を学び、受け継いでいきます。加えて、STEAM 教育を推進する学校等で町田の文化芸術、ひいては日本文化芸術の品質や美意識の高さを学ぶ機会を設け、問題解決能力や創造力、表現力を培うことを通じて、伝統文化等の伝承につなげていきます。

体験型ワークショップ等の開催



関連事業

工芸制作プログラム

子どもたちが工芸美術に親しめる環境をつくるため、学校と連携して、工芸制作プログラムを実施しています。

子どもたちの体験学習

読み聞かせ、茶道体験、華道体験、伝統文化等の文化芸術体験や、講師から話を聞く機会を各学校で実施することで、未来につなげています。

「方針 4 共に創る」視点の“方針 3 の行動例”

★チャレンジやコラボで文化芸術を育む★

○ デジタルアーカイブや実際に見て、知って、文化財の保存方法について学んでみる

○ 市外や外国の方々に町田の特色ある美術品や文化財を紹介してみる

○ 学校の授業のテーマとして取り入れてみる

○ 伝統文化等を子どもや若者たちに幅広く教えてみる

PICKUP!

コラム挿入

鶴川ショートムービーコンテスト

方針4

共に創る

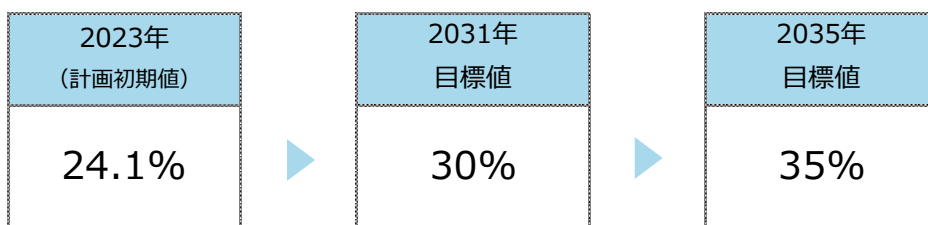
若者や市民、文化芸術団体、大学や企業等と共に、文化芸術を創作する機会やチャレンジできる場をつくり、エンターテインメントの要素を取り入れたまちをつくります。

施策1 市民や団体等のチャレンジの創出

施策2 企業等との共創による推進

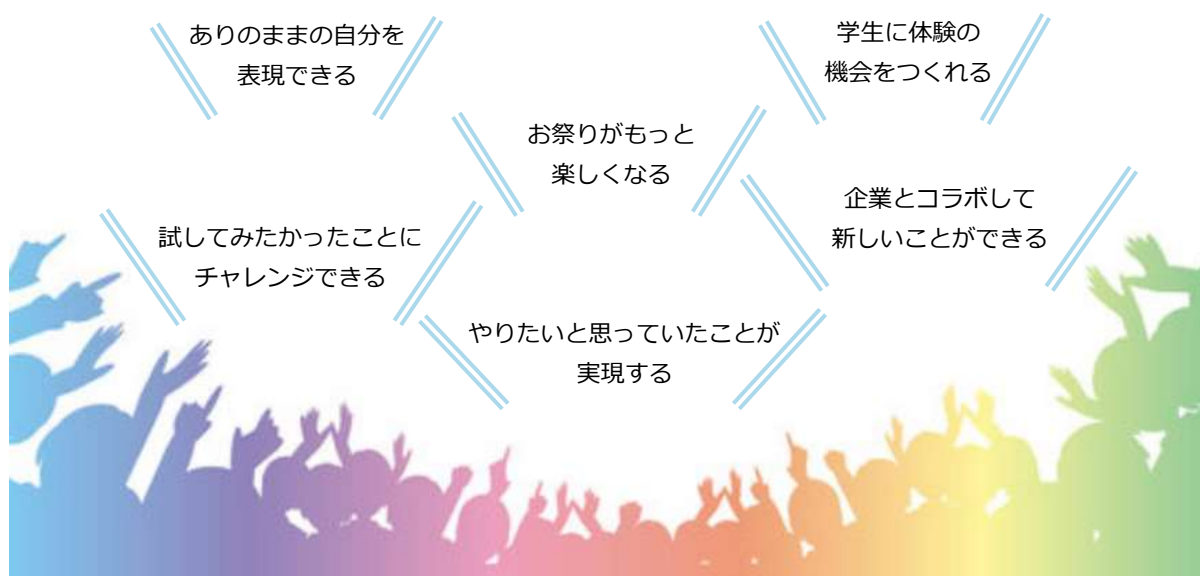
➡“チャレンジ”や“コラボレーション（共創）”の視点で、方針1～3の充実を図ります

指標	文化芸術活動に当たり、他分野の団体や企業、大学等と連携した活動に取り組んでいる市民の割合
----	--



「まちだ Smile-link project」のプロジェクトAや、方針1～3の各施策の取組において、チャレンジやコラボレーションできる機会・場を増やしていくことで、文化芸術活動にあたって他分野との連携を促し、数値を高めていきます。

方針に沿ったまちづくりでふくらむ、いいこと



PICKUP!

外部団体等が主体となっている取り組みの紹介

(まちカフェ)

外部団体等が主体となっている取り組みの紹介

(まほろ座／パリオ)

10 計画の推進にあたって

(1) 庁内関係部署との連携・推進

文化芸術のまちづくりの推進にあたっては、観光や福祉、教育その他の各関連分野が、それぞれの知識やネットワークを活かしながら横断的に連携することができるよう、情報共有の場を設けます。

また、計画を進捗管理し、実行の旗振り役となる文化振興課がプロジェクトマネージャーとなつて、市民や団体、企業や大学等との橋渡しを行い、各部門と調整して、“まちだ Smile-link project”や施策・取組を推進していくことで、文化芸術の輪を広げていきます。

(2) 「町田市文化芸術のまちづくり推進委員会」と施策・取組の評価

各関係主体の代表で構成される「町田市文化芸術のまちづくり推進委員会」を設置し、毎年度、文化芸術の現状や各主体の認識を共有します。あわせて、これまでの実績の振返りや評価を行い、その結果を当該年度および翌年度の取組に反映させることで、計画の着実な推進を図ります。

なお、施策・取組の振返りや評価にあたっては、

- ① 指標の評価：実施した取組等が方針ごとに設定した指標にどの程度影響を与えたか
- ② イベント等の活動者や鑑賞者（参加者）による評価はどのようなものであったか
- ③ 実施する取組等のプロセスやイベント等の質はどうであったか

など、現状の声やプロセス等を重視した評価を実施するとともに、各関係主体との連携を検討することで、地域一体となった文化芸術のまちづくりを推進します。

【3つの観点からの総合評価による施策・取組の推進】

